

理想の部長を目指して

流山市立東深井中学校 三年

菅井 理子すがい りこ

大人しくて、人前が苦手。外に出ることが嫌いで、体育は無理。そのかわり、読書や、絵を描くことが好き。簡単に言えば、引込み思案の圧倒的インドア派。これが私の、小学生の頃の自己分析です。そんな私に起きた「大改革」をこれからお話したいと思います。

私は小学生の時、吹奏楽部に所属していました。アットホームな雰囲気で、とても楽しく活動でき、音楽や楽器にすぐ愛着を持つようになりました。そして中学校でもやはり、迷わず吹奏楽部に入ることを決め、入部届を手に音楽室に向かいました。入部して数日。先輩と話しているときに、こんなことを言われたのです。「今年の一年生はあなた一人だから、三年生になったら部長だね。」…それは青天の霹靂。(今ではなぜ自分で気がつかなかったのか、とても疑問に思えます。)そう、吹奏楽部に入部した一年生は、私ただ一人だったのです。

その帰り道、私は悶々と考え続けました。私の思う理想のリーダーとは、人前で物怖じせず人をまとめることに長けている人物。また、周りを見て、適切な行動をとれる人物です。しかし、大変残念なことに私は、この理想とは対極にいます。お世辞でも部長に向いているとは言えないでしょう。それでも、今一年生の部員が私一人しかいないとなると、部長になることは避けられません。部活動を辞めれば、部長の仕事から逃げられます。でも、部活はやめたくありません。…そんな相反した考えがぐるぐると頭の中に回り続け、混乱状態の時、ふとこんな考えが頭に浮かびました。部長になるのは今すぐではなくて、二年ほど猶予がある。何とか二年間で、部長をやれる人間になれないだろうか。ここから私の「引込み思案大改造計画」が始まりました。

計画その1 「人前で自分の意見を伝えよう。」
授業中、積極的に挙手をし、人前で発言する練習をしました。初めのうちはかなり緊張して手を挙げるのがやっとでしたが、慣れてくるとだんだんと緊張せずに話せるようになりました。

計画その2 「リーダーシップを身に着けよう。」
学級の班長やパートリーダーに積極的に立候補し、できる限り人をまとめる役職に就き、人を引っ張っていくという経

験をたくさんしました。

計画その3 「部長を徹底的に観察しよう。」

毎日の活動の中で、今の部長が、部員に対して具体的にどのような指示を出し、どんな行動をとっているのかをじっくりと観察しました。また、何か問題が起きた時の解決策、部員への言葉かけなどもしっかりと観察し、自分自身の行動の参考にしました。

しかしこのように計画を立て、実行しようとしたものの、そうそううまくはいきませんでした。まず、自分の意見は間違っているかもしれないという不安でいっぱいになり、手を挙げるのには相当勇気がいりました。また、上手に指示が出せずに集団をうまくまとめられなかったり、判断を間違えて他の人にサポートしてもらったりなどの失敗も数多くありました。それでも、この計画を実行していった結果、少しずつですが私の理想のリーダーに近づいてきました。そして現在、私は三年生となり、吹奏楽部の部長を務めています。なんとか部長という仕事をこなせているので、私の「引っ込み思案改造計画」は、苦勞したとはいえ、成功したと言えるでしょう。

これから先、自分では到底無理ではないかという仕事を与えられたとしても、最初からあきらめず、まずその仕事の理

想の形を思い浮かべ、自分自身に当てはめてみて、自分の足りないところを補い、自分自身の力を最大限に引き出していきたいです。少しでも理想に近づけるよう、これからも努力し続けていきたいと思っています。